

きずな



発行：観音寺市民生委員児童委員協議会 会長：石川 豊 住所：観音寺市坂本町一丁目1番6号



地域福祉の向上に貢献

観音寺市民生委員児童委員協議会

会長 石川 豊

私たち民生委員・児童委員は、住民の皆様に寄り添い「身近な相談役」、支援への「つなぎ役」として、市、社会福祉協議会、関係機関・団体等と連携・協働して、だれもが安全に安心して笑顔で暮らしていくる地域づくりを目指して日々活動しています。

少子高齢化が進み、家族や地域の支え合いが低下する中で、社会的孤立、ひきこもり、虐待などさまざまな課題や問題が生じており、地域福祉の必要性が高まっています。そんな中で、民生委員・児童委員の先輩方がこれまで築かれてきた活動に対し敬意を表しながら、今、我々は何をすれば時代に合った活動ができるかを考え、地域福祉の向上のために、微力ではありますが貢献してまいりたいと考えています。

またそれにより、私たち民生委員・児童委員活動も、一層やりがいと充実感を感じながら活動ができ、住んでよかつたまちづくりを前進させていくものと思います。なにとぞ、皆様のご理解とご協力、そしてご支援のほどよろしくお願いいたします。

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、思いどおりに活動できない日々が続き、もどかしい気持であると思います。地域の方への声かけや見守りについては、お互いの感染予防に配慮し、無理のない活動をお願いいたします。

令和二年度は、世界を巻き込んだ新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、今まで当たり前だと思っていた地域の様々な行事や集まりが中止になつていきました。外出自粛を促す報道に触れる毎日本来は、とても大切な周りの人とのコミュニケーションを避けなくしてはいけない毎日の中で、地域の中では当たり前のよう楽しく活動しています。

民生委員・児童委員として二期目を迎えた令和二年、仲間と共に地域の様々な行事や見守り活動に取り組んだ中で、今も心に残つてるのは、安否確認での高齢者の方々との出会いや交流でした。中でも、九十六歳で一人暮らしのおばあさんは、毎週私の安否確認の訪問を楽しみに待つてくれました。おばあさんは、話を聞いてくれるのがとても嬉しそうで、若い頃の昔話を沢山してくれました。また、民生委員・児童委員としての私も、その話を通じて、おばあさんから元気を一杯いただきました。また、昼間、そのおばあさんが急病になりました。おばあさんから私も一緒に乗つまつてしまい、救急車で病院へ運ばれた時は、おばあさんの命だけは助かつてほ

民生委員・児童委員としてのやりがいと誇りをもつて



高齢者の方々へ心を込めて
お寿司作り

なり、お礼を言われて本当に嬉しくなりました。民生委員・児童委員として、どこまで踏み込めば良いのか、とても難しい問題ですが、おばあさんの息子さんがすぐには帰れない状況の中で、私の行動は、一人の人間として、当たり前の行動ではなかつたかと思います。改めて、民生委員の責務の奥深さを感じさせられました。

新型コロナウイルスの収束後も、コロナと共存しながら、新しい日常生活を作つていくことになります。民生委員・児童委員として活動する中において、今後も様々な状況に合うことだと思います。民生委員・児童委員として、人ととの出会いに今まで以上に感謝すると共に、民生委員の仕事にやりがいと誇りをもち、責務を果たしていきたいと思います。

他に引き受けてくれる人がいないからと、自治会長の困った顔。仕方なく安請け合いをしたのが始まり。研修会や総会の案内があり、その都度、厚生労働大臣やら県知事から委嘱状を頂き、最後は臨時地方公務員の認定証。どうしよう、やたら大袈裟になってきた。民生委員が何たるかも知らずに気軽に受けた事を後悔している自分が情けない。新人研修を受けていた内に、独居老人の訪問の他に保育園や学校行事の参加やら地区行事、老人会の催しの支援、共同募金活動まで、かなり幅広い事に驚く。開き直つて自分にできるものからやつていこう。取敢えず一週間に一度の独居高齢者回り。毎回声を掛けると煩がられるかも知れないと。今は先輩民生委員について行くだけで精一杯。そんなこんなで数か月。最初の頃は、「お変なことがあります」と「どうぞ」と「お変なことがあります」と繰り返していました。けれど今では話し出すと止まらない。「お変なことがあります」と「どうぞ」と「お変なことがあります」と繰り返していました。気が付くと30分。地区を一周するのに結構時間がかかる。そんな時、収束しない新型コ

新人民生委員の 独り言

口ナ騒動。自粛、自粛で声掛けも自粛モード。でも最初に決めた通りサボらず回っています。声は掛けないけど、ちゃんと見ていて話ができるように

しーと一心に祈つていました。後で、おばあさんが元気になり、退院して



よ。今日も洗濯物が干されている事を、今朝、鉢植えに水をやつた事を、雨戸が今日も開いた事を、エアコンの室外機が回っている事を、近所の人と楽しそうに話して聞いた事を、歯ブラシ咥えて箒で庭掃除していた事も。オットとこれは危ない、転んだら大変、声を掛けたところ。民生委員の仕事は繋ぐ事で教わつたけど、最近確かに実感する。痒い所に手が届かなくて、も、痒がつている人を見つけるのが民生委員の仕事。だけど、訪問を重ねて感じる事は、市の職員の手が回らない所、学校の先生だけでは不十分な所、福祉関係の方々の目の届かない所、そんな隙間を埋めるのも民生委員の仕事かも。さあ今日も、あのお婆ちゃんの所へ行つて話をしよう。お婆ちゃんの心の隙間を埋めるために。でも、また同じあの話だろうけど。

昨年十二月から民生委員・児童委員を拝命いたしました。地域の独居高齢者の方々を訪問する際は、歩きを励行しています。ウォーキングを兼ねて歩数を稼ぎながら、幹線道路からわき道に入り込みます。約六十年近く前（かなり昔？）にこの道を歩いた記憶が蘇ってきました。小学生の頃、親に怒られるだろうなあと思いつつ登校で近道をしたり、道草をして用水路でフナを探したりした、そんな思い出です。

しかし最近、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、こんなのかな心情はかけ消され、世の中は深刻な状況に一変しました。

感染防止のために、人と人との接触を極力避けることが求められるようになりました。このことは、多くの人々が孤立化しがちな状況になることを意味します。独居の高齢者の方々にとつて危惧されるのは、孤立化が孤独化につながる心配があることです。認知性、社会性、運動機能性の維持なども課題として挙げられています。そのため、生活上の具体的な配慮、行動が求められています。



一方、企業や学校ではパソコン等の情報機器を用いたオンラインの取り組みが有効だとマスコミがさかんに報道しています。しかし、高度なハイテク機器で優れた画像情報等をやり取りできたとしても、人と人の直接のやり取りに勝るものはないでしょう。

これから、私たちには新しい生活様式に基づいた対応が求められています。一番ローテクな方法ですが、足を運び、声を届けることが最も大切なことでしょう。訪問をさせていただき、笑顔が見られた瞬間は、ホッと一息、自分自身の心も和みます。物理的な距離をあけても、心の距離は近づけるようになります。

コロナの時代をどのように活動していくか、先輩諸氏の取り組みを参考にさせていただき、地道な活動を進めてまいりたいと考えます。

定年退職して数年、のんびりと定年退職して数年、のんびりとした日々を過ごしていた時、「民

生委員をしてみないか。」と声をかけられた。どんな仕事をすればいいのか不安もあったが、よく分からぬまま委員としての日々を過ごすうちに、生活の変化があつた。まず、冒頭に紹介したように、感謝されることが増えた。見守りの訪問をしたり、お弁当を届けたりする度に、必ず感謝の声をかけられる。



五十年ぶりに乗る自転車で坂道を下る時、少年の頃に感じた風が再び吹いてくるような気がして、こんな日々も悪くはないなと思う。

ためて気付かされた。もちろん、いいことばかりではない。戸を開けてくれないまま「来んでもええ。」と言い放たれることもあった。しかし、仕事をしていた頃とはまた違った喜びや、やりがいや、人とのつながりを感じる。

新しい風



ためて気付かされた。もちろん、いいことばかりではない。戸を開けてくれないまま「来んでもええ。」と言い放たれることもあった。しかし、仕事

心の距離を近づけよう

昨年十二月から民生委員・児童委員を拝命いたしました。

これから、私たちには新しい生

活様式に基づいた対応が求められ

ています。一番ローテクな方法で

が最も大切なことでしょう。訪問

をさせていただき、笑顔が見られ

た瞬間は、ホッと一息、自分自身

の心も和みます。

ためて気付かされた。

母の転倒

母は母屋に住んでいます。家中も外出時もシルバーカーを押して移動しています。足腰が弱つているとはいえ掃除洗濯など身の回りのことは自分でできていました。昨年あたりから移動中や動作の途中にバランスを崩して転倒することが多くなり、携帯電話で私を呼び、「また転んだ、起こして。」ということが増えてきました。

昨年末にまた家の中で転倒しま

どんな



三年前になるだろうか。旅先の台湾の高雄で朝、散歩していた。公園の片隅から歌声がしていた。車椅子に乗った高齢の方5、6人が見え、すぐ近くに介護の方5、6人の姿も見えた。介護の方は、すぐ外国からの人だと判つた。歌の方へ近づくと、日本語で「上を向いて歩こう」だつた。手に持つた歌詞カードには、他にも10曲程、全て日本の曲があつた。私が目で

挨拶をすると「日本人ですか」と笑顔と共に返つてきた。全員が私の方を見て、戦前の教育を受けたこと、戦後何回も日本に行つたことを話してくれた。この人達は、今まで、どんな半生を過ごしてきたのか、興味を持つてしまつた。

アジアの国で外国人が介護をしらし。私自身も、どんなふうに接したらいいか判らず不安だつたが、相手の方が今までどんなふうに生きてこられたか、少しづつ雑談の中から拾つていく中、少し表情が変わる事がある。それをきっかけに話が盛り上がつたりする。特に、若い頃の話には顔が生き生きとするような場面に出会つたりすることもある。それを自分が想像することも大切なようだ。そんな時、ほんの少しの喜びがある。もしもしたら、相手の方も・・・



した。いつもとは違いお尻から落ちて、強く打撲したようで、体を動かすと激痛が走り、無理に動かすことができない状況でした。痛がる母を家族の力を借りて、病院へ連れて行き診察を受けました。骨折はなかつたものの、打ち身の痛さで布団に伏せる生活が始まりました。食事、排便、着替え、入浴等、今までできていたことが全く独りでできなくなりました。手を貸そうとするときがり、不慣れな私は思うように援助できませんでした。生活の助けとして、寝起きや家の中の移動だけでも、安全に容易にできる良い手助けはない

でした。生活の助けとして、寝起きや家の中の移動だけでも、安全に容易にできる良い手助けはない

ロープ等を家の中に設置しました。お陰で、母は、寝起き、移動、用便等がしやすくなつたと喜んでいます。2ヶ月ほど不慣れな支援活動をしましたが、何とか母の症状も少しずつ快方に向かい、痛みを訴えることも減り、また、自分ひとりで行動できそうな状況まで回復しました。

今後は、転倒して骨折等をしないよう気を付けて生活するととも

に、デイケアを利用して、足腰の筋力維持や機能訓練ができるように計画しています。



毎年、五月三日につつじ祭りと三世代交流をおこなっています。今年は新型コロナウイルスのため中止が決定されました。十数年前から池のつつみに毎年つづじを植え、年に4回ほど手入れをおこない、つつじ祭りでは老人から子供たちまで楽しんでいただいて、楽しく交流を深めていました。また、夏には花火大会もおこなない、大勢の子供たちが集まりにぎわっています。

自治会が町内会のみなさんの活性化のために始めたもので、親睦のための交流を初め、みんなが集える居場所を提供することで地域内会にしていきたいと思います。また、昨年11月に自治会長より民生委員の依頼がありひきうけ、活動を始めて半年足らずの活動中、新型コロナウイルスのため卒業式や入学式など多くの行事が中止になりました。多難な船出となりました。

つつじ祭りと三世代交流



主任児童委員部会活動紹介

主任児童委員23名は、新型コロナウイルス感染防止のために活動を自粛してた5月、6月に、手分けをして、子ども用のかわいいマスクを作りました。できあがった236枚のマスクは、市内の保育所(園)に贈りました。



民生委員として早7年目を迎えました。お引き受けした時は嘱託職員として仕事に追われている最中でもあり、平日の民生委員活動（月1回の定例会、毎週1回の配食サービス、研修会等の参加）と仕事の両立に少し不安を感じましたが、職場の同僚や福祉委員の方に助けられながら今日に至っています。

民生委員・児童委員の活動は訪問活動等様々ですが、特に高齢者

に関する問題、認知症・病気・介護の相談が増えてきました。住民の生活様式や価値観の多様化、地域を取り巻く環境の変化が影響しているのかと思われます。地域を訪問して感じたのは、近隣の高齢者同士でも話す機会があり無い引きこもり気味の高齢者が増えてきていることです。このような高齢者を孤立化させないためにもふれあい・いきいきサロンのような活動が必要と考え、気軽に

高齢者的人に「気軽に集える場」の提供をすることで、語らいとくつろぎの場（ストレスの解消）・社会との結びつきの場（情報交換）・お互いの健康確認の場（安否確認）の効果が得られています。

現在は、コロナの影響で開設できませんが話し合う機会の少ない

「気軽に集える場」の提供



に集える場の提供として自治会の集会場を利用した「ふれあい喫茶」を開設しました。

「ふれあい喫茶」は、ボランティア1名の方と月1回ですがワンコイン（100円）でモーニングを提供するもので、モーニングを食べながら脳トレをしたり雑談に花を咲かせたりしています。

高齢者的人に「気軽に集える場」の提供をすることで、語らいとくつろぎの場（ストレスの解消）・社会との結びつきの場（情報交換）・お互いの健康確認の場（安否確認）の効果が得られています。

現在は、コロナの影響で開設できませんが話し合う機会の少ない



高齢者同士の交流の場として今後も続けていきたいと思います。

主任児童委員として

この原稿を書いているのは五月です。

五月は、子どもの健やかな成長を願つて子どもの日から一週間を児童福祉週間にと定められています。もう五十年近く前になりますが、保育科の学生に「子どもは家の宝であり国の宝です。」と先生が言つっていました。今のように少子高齢化やいじめ、虐待、DV等と言う言葉はあまり聞かれなかつた時代ですが、家の宝であり国の大宝であることに今も昔も変わりはありません。

ません。

市内の現状を知らなかつたので、知り合いの相談員さんに聞きました。虐待は、十年足らずで倍に増

えているそうで、保育所や幼稚園からの連絡で分かる事が多いそうです。通所、通園をしないで家にいる子どもは、大丈夫なのか?心配になります。両親の暴力や暴言を見たり、聞いたりするのも子どもにとつては、心の虐待になるそうです。また、ひとり親世帯も年々増えていろいろな問題を

抱えているそうです。
分散登校の日、小学一年生が家で育っていた朝顔の植木鉢を大事に持つて登校していました。「双葉が出るとなるなあ。花が咲いたらきれいやで。」と声をかけると、うれしそうでした。世話をすることは大変です。

不器用ながらも男手一つで息子を育てている父親と、周りの血の繋がらない人たちに支えられながら、立派に成長していく「とんび」と言うドラマを思い出しました。双葉(親)にはなれないけれど、情報交換や協力を得ながら、地域の子どもたちの成長のお手伝いが出来ればと思っています。

民 生 委 員 に な り 思 う こ と

何気なく引き受けた民生委員の活動の大変さと重要さにあらためて驚きました。

市役所勤務と地域消防団員の経験から妙な自信がありましたが、少し不安になりました。しかし、先輩諸氏や民児協事務局の皆様のあたたかいご指導をいただき、あらためて使命感と自信を持つ事が出来ました。活動については、地

域性として高齢化は進んでいます。が、コミュニティーが充実してつながりが深いと感じました。

しかし、個々の価値観の尊重と守秘義務については気を配るよう努めています。

もうひとつ気になる点は、新型コロナによる活動制限です。まだまだわからない事が多い新型コロナウイルス。

これからは、仲間と相談しながら活動出来る事と出来ない事を模索しながら、熱意と誇りを持ち活動してゆくんだと決意を新たにしました。



「新しい生活様式」 大事な家族や友人、隣人の大事な命を守りましょう



健康増進課

編集後記



今年も会報紙「きずな」を発行できる運びとなりました。原稿をお寄せいただきました皆様ありがとうございました。

令和二年が始まり、新型コロナウイルス感染予防の観点から、色々な行事が中止になり、停滞を余儀なくされていますが、徐々に新しい生活様式に馴染んでゆくものと思われます。

本紙をお読みいただき、「きずな」の大切さについて再認識して戴ければ幸いです。

今後とも、民生委員・児童委員の活動にご理解ご協力をよろしくお願い申し上げます。

編集後記
表紙題字
表紙スケッチ画
秋山 治司
富原 一郎
高橋 康員
康員